



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

# 「2009 年度日本 OSS 貢献者賞、 日本 OSS 奨励賞」

## 募集要領

2009 年 7 月 30 日  
独立行政法人 情報処理推進機構  
日本 OSS 推進フォーラム

## 1 概要

独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) では、オープンソフトウェア・センターを中心に、オープンソースソフトウェア (以下、OSS という) の利用と開発促進のための様々な課題解決に取り組んでいます。そのなかで、OSS 開発者や OSS コミュニティで活躍する人材を育てていくことが重要であるとの認識を持ち、外部の有識者の参加を得て、その施策等について様々な検討を重ねているところです。

日本そして、世界において、オープン・共同タイプの開発が浸透する中で、国際的なコミュニケーション能力や提案能力を持ち、コミュニティでの開発能力を持つ人材の重要性が高まっています。コミュニティ型の共同開発が多く行われている OSS を活用した人材育成は、グローバルなオープンイノベーションを主導しあるいは取り込んでいるために、重要性をいっそう増しています。

今般、昨年に引き続き「2009 年度日本 OSS 貢献者賞」を実施することになりました。

「日本 OSS 貢献者賞」は、2005 年度に日本 OSS 推進フォーラム(\*1)と独立行政法人 情報処理推進機構によって、日本における OSS 開発の振興を図ることを目的に、影響力のある開発プロジェクトを創造、運営した開発者やグローバルプロジェクトにおいて活躍する卓越した開発者及び普及に貢献した方を表彰するものとして創設されました。

2005 年度からこれまで 4 回の表彰を行い、16 名の卓越した開発者および普及に貢献された方々に本賞を授与してまいりました。この 4 年の間に、OSS は企業システム、政府・自治体のシステムに浸透してきました。また、組み込み分野においても確固たる地位を確保しています。受賞者を含め、日本からグローバルへあるいは、グローバルから日本へ新技術を提案するといった事例が多くなってきております。

普及、浸透する OSS の広がりに伴って、若手の参画や、プロジェクト、コミュニティの拡大が進んでいます。今回、検討の結果、影響力のある開発プロジェクトや普及活動に着目するだけでなく、新たなプロジェクトで活躍する開発者や、貢献に努力している若手やグループに光をあて、さらなる活躍を推奨することが、これからの OSS 開発者や OSS コミュニティで活躍する人材育成に有効であるとの見解に達しました。

そこで、第 5 回目をむかえる本年度より、日本 OSS 貢献者賞にくわえ、日本 OSS 奨励賞を創設することといたします。日本 OSS 奨励賞は、この一年間において活躍した、個人やグループを表彰することで、さらなる活躍やスキルの向上、普及への貢献を奨励するものです。

本募集要領により、2009 年度日本 OSS 貢献者賞、日本 OSS 奨励賞の表彰対象の候補となる方を募集いたします。

主催 : 独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA)  
共催 : 日本 OSS 推進フォーラム

## 2 賞の概要

### 2.1 各賞の対象者、対象分野

#### 2.1.1 日本 OSS 貢献者賞

OSS の開発、普及において中心的な役割を果たし、影響力のある開発プロジェクトを創造、運営したか、グローバルプロジェクトにおいて卓越した開発者として活躍したか、ないしはそれらの普及に貢献した、特に優れた業績を出された個人

##### A. OSS 開発分野

世界・日本における OSS プロジェクトにおいて成果をあげた開発者を対象とします。開発基盤や OS・ミドルウェア、アプリケーション、デスクトップ、サーバ、組み込み分野など幅広い分野の中で活躍する OSS 開発者が対象です。

##### B. OSS 普及促進分野

OSS の発展・普及に大きく貢献した方、OSS コミュニティやマーケットに大きな影響を与えた方を対象とします。コミュニティの形成、OSS の認知、ドキュメンテーション、人材育成、標準化などに大きく貢献された方が対象です。

## 2.1.2 日本 OSS 奨励賞

OSS の開発、普及において、この 1 年間に特に優れた成果を出した、あるいは活動した個人ないしはグループ

※ 但し、両分野ともに、現在も日本で活動を継続している方を対象とします。

## 3 賞の概要

### 3.1 募集期間

2009 年 7 月 30 日(木)から 9 月 7 日(月)まで受け付けいたします。

### 3.2 候補者の推薦方法

自薦、他薦を問わずどなたでも応募できます。

## 4 審査概要

### 4.1 審査方法

審査は、産・学におけるメンバーで構成された審査委員会(\*2)が行います。

### 4.2 審査基準

#### 4.2.1 日本 OSS 貢献者賞

候補者が OSS の発展に寄与したことを審査するために、次の 4 つの審査項目を重視します。

##### ① 参画する OSS プロジェクトの規模・普及度

世界あるいは日本において多数の開発者・利用者が存在すること。  
ディストリビューションに標準的に採用されていたり、開発コミュニティが活発であること。

##### ② 参画する OSS プロジェクトにおける候補者の役割と責任の大きさ

参画する OSS プロジェクトを主導したり、重要な役割を担っていること。

##### ③ 候補者個人の OSS 普及に対する貢献度

普及活動とは OSS 普及団体や標準化団体等における活動を指し、その普及活動を主導したり、大きく貢献していること。

##### ④ 候補者個人の OSS コミュニティに対する貢献度

参画する OSS プロジェクトの活動を超越、日本あるいは世界の OSS コミュニティに対して貢献を行っていること。

また、以下の項目は審査においてプラス要素として考慮します。

●新規性

新しい情報技術を取り入れた OSS であること、あるいは OSS 分野において初めて実用化あるいは普及した OSS であること。

●市場への波及効果

参画するプロジェクト・活動が、OSS ビジネス市場において広く利用され、ビジネス上の重要な要素となっていること。

#### 4.2.2 日本 OSS 奨励賞

OSS に関する活動を行う個人やグループが、以下の何れか、あるいはその複数において卓越した成果をこの一年間挙げているかを重視して審査を行います。

① 活動の範囲と期間における活発度

OSS に関するプロジェクト等において、開発活動ないしは普及に寄与する活動に従事しており、この一年間の活動が活発であり成果をあげたこと。

② 開発した OSS プロダクトの有用度、ないしは普及貢献の有用度

活動する OSS プロジェクトの成果となるソフトウェアの有用度に卓越した点が認められる、ないしは OSS 普及に寄与する活動において、利用者ないしは開発者にとって有用であったこと。

③ 活動の模範性、将来性

開発ないしは普及に寄与する活動が、他の OSS 開発者や OSS 利用者からみて模範となっていること。また、他の OSS 開発者や OSS 利用者からみて活動の発展に対する期待を抱かせるなどにより、将来性が高いこと。

④ 知名度、若手育成度

グループの知名度が高く、OSS 普及や OSS 開発の発展へ寄与していること。また、若手を積極的に巻き込んで、OSS 開発や普及に関わる人材育成に有益なグループ活動となっていること。

#### 4.3 スケジュール

7月30日(木)	推薦の受付を開始
9月7日(月)	推薦の締め切り
10月上旬	受賞者への結果通知
10月29日(木)	IPA フォーラム 2009 において表彰式を実施

#### 4.4 審査に必要な資料請求等

審査の過程において、確認、連絡すべき事項が発生した際には、事務局より推薦者にご協力いただくことがありますのでご了承ください。

#### 4.5 推薦における注意

グループの推薦をいただいた場合は、日本 OSS 奨励賞の候補となります。個人の推薦をいただいた場合は、日本 OSS 貢献者賞および日本 OSS 奨励賞の候補となります。

## 5 公表・表彰等

### 5.1 公表

審査の結果選ばれた受賞者については、IPA フォーラム 2009 で表彰式を行い、その後、IPA の Web ページに掲載します。

### 5.2 表彰等

日本 OSS 貢献者賞受賞者には盾の授与を行います。日本 OSS 奨励賞受賞者には賞状の授与を行います。団体・グループの場合は、代表者に対して賞状の授与をおこないます。

## 6 推薦書記載内容

### 6.1 記載事項

【受賞候補者についての項目】

- 1 候補者 ないしは代表者氏名※
- 2 グループ名称
- 3 候補者 ないしは代表者メールアドレス
- 4 対象分野
- 5 プロジェクトや活動の概要※
- 6 プロジェクトや活動の URL※
- 7 推薦理由※

【推薦者についての項目】

- 1 推薦者氏名※
- 2 推薦者メールアドレス※
- 3 推薦者電話番号
- 4 推薦者所属団体名
- 5 連絡事項

※は必須項目です。

### 6.2 応募方法

OSS iPedia または、電子メールで応募してください。

(1) OSS iPedia からの応募

1. OSS iPedia にアクセスしてください。  
URL: <http://ossipedia.ipa.go.jp/>
2. ホーム>インフォメーションの「2009 年度日本 OSS 貢献者賞推薦書」をクリックして、推薦書を表示してください。
3. 推薦書画面が表示されましたら、上記の記載事項を入力してください。
4. 記載事項を入力後、推薦書画面の最後の「入力確認」ボタンをクリックし、入力内容の確認を行ってください。
5. 内容に変更がなければ、「送信」ボタンをクリックして終了です。  
送信したデータは後から確認することが出来ませんので、入力確認を行ってから送信してください。

(2) 電子メールでの応募

所定の「2009 年度日本 OSS 貢献者賞 推薦書」を IPA の Web ページ

(<http://www.ipa.go.jp/software/open/oss/2009/contribute/ossaward2009.html>)

より、ダウンロードし、必要事項を記入の上、E-Mail に添付して応募してください。

E-Mail 送付先アドレス: [oss-award2009@ipa.go.jp](mailto:oss-award2009@ipa.go.jp)

(注意)

応募情報の取り扱いに関しては、IPAの「プライバシーポリシー」に基づき、適切な管理を行います。「プライバシーポリシー」は <http://www.ipa.go.jp/about/privacypolicy/index.html> をご覧ください。

※他薦の場合は本人の同意を得てください。ただし本人に直接同意が得られない場合は、公開されている範囲の情報を推薦書に記入して応募してください。本人にはIPAが同意を得ます。詳しくは、「5.推薦書記載内容」を参照してください。

■本件に関するお問い合わせ先

独立行政法人 情報処理推進機構 オープンソフトウェア・センター 企画グループ 大内/柳本  
Tel: 03-5978-7507 Fax:03-5978-7517 E-mail: [oss-award2009@ipa.go.jp](mailto:oss-award2009@ipa.go.jp)

\* 1 日本 OSS 推進フォーラムについて

国内情報システムのベンダ、ユーザ、学識関係者などが参加し、OSS 活用上の課題について、自由な立場から議論を重ねながら、課題解決に向けて取り組んでいます。活動は課題ごとに部会を設置して実施しています。独立行政法人 情報処理推進機構 (理事長:西垣 浩司)が事務局を務めています。日本 OSS 推進フォーラム→ <http://www.ipa.go.jp/software/open/forum/>

\* 2 審査委員会

	氏名	所属
委員長	相磯 秀夫	東京工科大学 前学長/理事
委員	石井達夫	SRA OSS Inc.(2008年度日本OSS貢献者賞受賞者)
委員	上田 理	ソニー株式会社(CE Linux Forum)
委員	大谷 真	湘南工科大学教授
委員	鈴木 友峰	株式会社 日立製作所(日本OSS推進フォーラム)
委員	平林 俊一	富士通株式会社(Wide Studioの開発者) (2006年度日本OSS貢献者賞受賞者)
委員	まつもと ゆきひろ	株式会社ネットワーク応用通信研究所(Ruby開発者) (2005年度日本OSS貢献者賞受賞者)
委員	吉藤 英明	慶應義塾大学講師(USAGI Project) (2006年度日本OSS貢献者賞受賞者)

(敬称略 50音順)

\*3 これまで受賞者

過去4回の受賞者は、次の通りです。

■「2005年度日本OSS貢献者賞」の受賞者(4名、五十音順)

- ・ 鵜飼 文敏(うかい ふみとし)氏:Debian Projectの主要メンバー
- ・ 高橋 浩和(たかはし ひろかず)氏:Linux Kernel開発への参画
- ・ 高林 哲(たかばやし さとる)氏:Namazu, quickml, gonzuiの開発/プロジェクト運営
- ・ まつもと ゆきひろ氏:Rubyの開発/プロジェクト運営

■「2006年度日本OSS貢献者賞」の受賞者(4名、50音順)

- ・ 比嘉 康雄(ひが やすを)氏:Seasarの開発
- ・ 平林 俊一(ひらばやし しゅんいち)氏:WideStudio/MWTの開発プロジェクト
- ・ 山本 博之(やまもと ひろゆき)氏:Sylpheedの開発
- ・ 吉藤 英明(よしふじ ひであき)氏:IPv6プロトコルスタック「USAGI」の開発

■「2007年度日本OSS貢献者賞」の受賞者(4名、50音順)

- ・ 小山 哲志(こやま てつじ)氏 :日本PHPユーザ会における技術者育成をはじめとしたOSS普及促進への貢献
- ・ 笹田 耕一(ささだ こういち)氏:Rubyを高速化するシステムYARV(Yet Another Ruby VM)の開発をはじめとしたOSSへの貢献

- 佐藤 嘉則(さとう よしのり)氏:組み込み向け CPU への Linux の移植をはじめとした OSS への貢献
  - 松本 裕治(まつもと ゆうじ)氏:日本語形態素解析システム「茶筌(ChaSen)」の開発をはじめとした OSS への貢献
- 「2008 年度日本 OSS 貢献者賞」の受賞者(4 名、50 音順)
- 石井 達夫(いしい たつお)氏: PostgreSQL の開発、発展、普及に大きく貢献
  - 奥地 秀則(おくじ よしのり)氏:ブートローダ GRUB の主要開発者で、GRUB2 では中心となって、設計・開発に携わる
  - 中野 雅之(なかの まさゆき)氏:Firefox の開発に関わり、日本語入力システムとの連携機能等の実装に貢献
  - 宮原 徹(みやはら とおる)氏:「オープンソースカンファレンス」を立ち上げ、中心的な立場で活動をリード

過去の表彰模様は、次の URL をご覧ください。

2005 年度 <http://www.ipa.go.jp/about/press/20050823.html>

2006 年度 <http://www.ipa.go.jp/about/press/20061010-2.html>

2007 年度 <http://www.ipa.go.jp/about/press/20071012.html>

2008 年度 <http://www.ipa.go.jp/about/press/20081017-2.html>

以上